

<仮置場の設置・開設の流れと主なポイント>

(有識者等からの指摘を踏まえ作成)

項目	仮置場の設置・開設時のポイント・内容	チェック欄
事前準備 ↓	<ul style="list-style-type: none"> 候補地を事前に準備しておく（リストと位置図の作成）。 候補地リストには、所有者・規模等だけでなく、『採用条件（短期なら利用できるのかなどの利用条件）』を整理しておく。 候補地の位置図を準備し、被災場所との距離・適正配置が検討できるように。 	
人員手配 ↓	<ul style="list-style-type: none"> 担当職員だけでは不足。他部署、シルバー人材センター、業者等の協力依頼先を事前に整理・調整（協定締結等）。 担当役割を事前に設定（管理者、交通整理・誘導、分別指導、荷降補助等）。 管理業者が発災後すぐに管理が始められるように平時から準備を。 	
計画 ↓	<ul style="list-style-type: none"> 地震時と水害時では廃棄物の発生内容が異なる。仮置場候補地の分別・レイアウト計画図を作成しておくこと、迅速な準備が可能。 配置計画と併せて、人員の配置、動線、必要資機材等の計画も重要。 事前に管理業者と担当する候補地の割り振り、資機材準備の分担など、役割分担のすり合わせも重要。 	
重機資機材 ↓	<ul style="list-style-type: none"> 次ページに示す「重機・資機材」を調達。 出入口での重量計測用「トラックスケール（計量器）」も有効。（ただし、渋滞を誘発する場合がありますので注意） ぬかるみ防止用に「敷鉄板」の活用も有効。 	
養生等 ↓	<ul style="list-style-type: none"> 荷降ろし・搬出・粗選別用の作業スペースを確保。 可燃物は、発火・発熱防止の観点から5m以上の積み上げをしない、延焼防止用の離隔距離を確保。 離散防止用ネット、悪臭防止のための消臭剤散布、粉じん飛散防止のための散水、汚濁水の地下浸透防止用の遮水シートなどの各種対応。 	
広報 ↓	<p>(仮置場が確保できるまでの間・勝手集積場所が生じないように)</p> <ul style="list-style-type: none"> 発災後すぐに場所の決定の予告、それまで排出禁止、分別排出が必要なことなどの予告広報の実施。 <p>(仮置場の確保が見通せた段階・開設できた段階で)</p> <ul style="list-style-type: none"> 仮置場名称、場所、アクセス、受入開始日、受入時間、休止日、受入品目、受入禁止物、便乗ごみ等の留意事項、高齢者等運搬できない住民への配慮等を広報周知。 	
受入管理 ↓	<ul style="list-style-type: none"> 受付チェック：被災者か否か、車両番号記録、搬入物、写真など。 管理事項：搬入搬出・数量管理、分別荷降ろし、作業者の安全管理、環境保全対策、火災防止、衛生害虫等対策、有害物危険物対策、粗選別処理など。 受入管理事項は、事前のマニュアル準備が重要。 	
参考文献情報	<ul style="list-style-type: none"> 環境省「災害廃棄物対策情報サイト 災害廃棄物対策指針 技術資料・参考資料ダウンロード」 http://kouikishori.env.go.jp/guidance/download/ 国立研究開発法人国立環境研究所「災害廃棄物情報プラットフォーム」 https://dwasteinfo.nies.go.jp/index.html 一般社団法人廃棄物資源循環学会「災害廃棄物分別・処理 実務マニュアル—東日本大震災を踏まえて」 愛媛県「災害廃棄物処理対策マニュアル（市町策定用モデル）」 https://www.pref.ehime.jp/h15700/manyuarumodel/manyuarumodel.html 	

※内容を確認した際には、右側のチェック欄に◎点を入れましょう。